

活動タイトル	不登校等の親子へ就労体験を通して居場所からの自立を支える事業	団体名	NPO法人ぜんしん			
<p>1年間の活動 (アウトプット)の 目標 (事業全体)</p>	<p>1.元当事者親子による相談対応・自立支援 ・就労/不登校相談会&パソコン等のミニ講座の開催：(年12回実施) ・意見交換等に応じる居場所の開催：(年12回実施) 2.就労体験による自立支援 ・就労体験へ参加を希望する当事者のトレーニングを実施：(年5回以上実施) ・出張ゲーム大会の開催：(全3会場、合計5回実施) 3.ボランティア養成や当事者理解を深める学習会： 臨床心理士の講師を招き、新たに加わり始めるボランティアスタッフや既存スタッフらの相談スキルを高める学習会を開く(年2回実施)</p>		<p>■ 活動風景</p>			
	<p style="text-align: center;">■ 活動報告</p> <p><①就労/不登校相談会&パソコン等のミニ講座の開催> 相談会では、主に保護者の相談を中心に受け、助言等を行う。 ミニ講座では、多様なゲームを活用し、対人スキルUP講座等を展開した。 <②意見交換等に応じる居場所の開催> 初参加の方々へは、特に自立への意欲を高めてもらえるように 団体でできる支援の方策や将来に向けた提案等を丁寧にいった。 <③就労体験へ参加を希望する当事者のトレーニングを実施> 参加者は、主にデジタルゲームを活用したトレーニングを受けた後、 将来の自立に向けた「目標設定シート」を作成した。 「目標設定シート」の作成には至らなかったが、不登校児童・生徒で 「アルバイト先について就労イメージを描けた男子」が現れたことは大きい。 <④出張ゲーム大会の開催> 高齢者・障がい者等の施設を訪問し、ゲームを活用したレクリエーションを 実施したところ当事者の一人は、人と関わることに自信を持てるようになった。 <⑤ボランティア養成や当事者理解を深める学習会> 臨床心理士の講師を招き、事例研究等の学習会を開いたことで、 既存スタッフの相談スキルを高める一助になった。 <活動周知> 上記①から⑤の事業を周知する為、パンフレット(6,300枚)等を行政機関等へ配布。 また、団体の公式ブログでも開催告知を定期的に行った。</p>	<p style="text-align: center;">■ 1年間の目標に対する達成状況</p> <p><①就労/不登校相談会&パソコン等のミニ講座の開催> 目標参加人数：65名 今期参加人数：延べ184名 <②意見交換等に応じる居場所の開催> 目標参加人数：55名 今期参加人数：延べ139名 <③就労体験へ参加を希望する当事者のトレーニングを実施> 目標実施回数：5回以上 今期開催回数：16回 目標参加人数：A)不登校児童・生徒(10代)：10名以上 B)ひきこもりの若者：10名以上 今期参加人数：A)6名、B)延べ78名 <④出張ゲーム大会の開催> 目標実施回数：5回以上 今期開催回数：5回 目標参加人数：A)不登校児童・生徒(10代)：8名以上 B)ひきこもりの若者：8名以上 今期参加人数：A)0名、B)延べ24名 「目標設定シート」を8名が作成。参加者の5名が、自ら就労に向けて、目 標を掲げ、動けるようになった。 <⑤ボランティア養成や当事者理解を深める学習会> 目標実施回数：2回以上 今期開催回数：2回 参加人数：延べ14名</p>	<p>2018年10月 27日(土) 事前トレーニ グの様子</p>	 <p style="text-align: center;">出張ゲーム大会に向かう前にゲームの練習</p>		
	<p style="text-align: center;">■ 1年間の活動のまとめ</p> <p>上記①と②事業を利用するリピーターが、自立に向けて居場所 所に留まることなく、居場所以外の社会に目を向け、ステップ アップする為に設けた上述③と④の事業は、ひきこもりの若者 にとっては有効的な事業になった。 理由として、今までの居場所利用者は、「目標を設定するこ となく、居場所に言い続けていたが、今期助成事業において、 「目標設定シート」に自身の将来像を描き、期限を定めて、各 各自が動けるようになったことは、成果として特筆に値する。 ただ、不登校児童・生徒を対象にした上記③と④の事業に おいて、目標を大きく下回った。 活動周知、支援コンテンツ、追加イベント等のアピールの仕 方や方法が不登校児童・生徒の心を打たなかったものと捉え、 今後、団体の課題とする。</p>	<p style="text-align: center;">■ 事業を通じて得られたノウハウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者が自立に向かって具体的な目標を定めることができる 仕組み(「目標設定シート」の運用) ・当事者の成長度合い等を管理する仕組み (定例活動終了後に、振り返り会議を開き、①定例活動の レビューに加え、②参加した当事者の発言や行動をスタッフが 振り返り、各スタッフの意見をフォーマット(エクセルファイル)に落 とし込み、成長度合い等を管理する仕組みの運用) ・居場所以外に当事者が活躍できるフィールドの拡大 (ひまわりサロン、進和学園ほかの施設は、助成終了後も継続 的に当該事業のノウハウを展開する約束を交わしている) ・実際に就労体験や就労先となる施設の獲得(進和学園) ・ルーブリックを用いたスタッフの成長指標の作成 	<p style="text-align: center;">■ 実施した人材育成策</p> <p>「ボランティア養成や当事者理解を 深める学習会」を臨床心理士の加 藤啓子氏を招き、開催した。 新たにボランティア活動へ加わりた いと学習会に参加する方は現れな かったが、既存スタッフにとっては、「カ ウンセリングの具体的な事例やアドバ イスをいただけて大変参考になりました」等の意見をいただいた。ロールプレ イや身近な当事者の事例を検討す る機会等、今後の活動に活かすこ とができる貴重な研修機会になった。</p>	<p style="text-align: center;">■ 活動成果のアピールポイント (自由記入)</p>		
			<p>この1年間の 活動を通じて</p>	<p>6名の当事者に具体的な自立イメ ージを描いていただくこと</p>	<p>を達成しまし た。</p>	
			<p style="text-align: center;">■ 受益者の変化 (効果測定結果等)</p> <p>アンケート結果から、当事者に以下のような変化(成長)が窺われる。 ・初めて出張ゲーム大会に参加したときに比べて、自分から積極的に動いていたの でよかった。また、こういった企画に参加することに躊躇しなくなったので成長してい ると思う。 ・(目標設定シートに記した)企画立案までにはいっていないけど、ゲーム大会の工作 案を出したりして、上手く出来てるかなと思いました。 ・ゲームを通じて人と交流し、元気をもらえていると思う。(就職活動の)面接時など で経験談として話せることが増えた。等</p>			